NPO
TRITON
ARTS
NETWORK
トリトン アーツ ネットワーク

認定特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク

評価事業報告書 2022

2023 年 6 月

トリトンアーツ評価委員会

はじめに

2021 年秋に第一生命ホール 20 周年記念公演のひとつとして開催された「晴れた海のオーケストラ第 10 回演奏会 ベートーヴェン・チクルスⅤ「第九」」は、2022 年度が始まる春から初夏にかけてそのドキュメンタリー番組が NHK BS そしてＥテレで相次いで放映され、晴れオケ – 第一生命ホール – トリトン・アーツ・ネットワーク（トリトンアーツ）の活動を全国に知らしめました。それは同時に、トリトンアーツが大切にする晴海の人々のシビック・プライドを高めることにも繋がったでしょう。

「トリトン晴れた海のオーケストラ（晴れオケ）」は 2023 年度さらに第 11 回公演が 10 月に、前年のショパン国際ピアノコンクールで活躍した小林愛実さんとともに、追加公演を含む 2 回、ホールいっぱいのお客様を迎えて行われました。上記のドキュメンタリー番組からは、オーケストラ公演を定例化していない、つまりそれにはやや小さいと考えられているホールで、指揮者なしで、しかもコロナ禍において合唱団付きの交響曲を演奏するといういくつもの奇跡が、どのようにして実現したかがわかります。けれどもこの 3 年間にわたってトリトンアーツの評価委員長を拝命した音楽史研究者には、話題にはなりにくいもう一つの意味があったのではないかと感じられます。

オーケストラ、そしてそれが活躍する交響曲は、西洋芸術音楽つまり「クラシック音楽」の、少なくとも器楽分野において、最大の人数が関わる最高位の作品群と見なされています。けれどもそれは歴史的な展開によって「そうなった」のであって、その始まりを探求するとその意外な姿が見えてきます。おおむね 18 世紀とともにイタリアで、つまり今日も有名なヴァイオリンの銘器が生まれた時期と地域で、「シンフォニア」と呼ばれる曲種が生まれました。けれどもよく見てみるとそれは、第一生命ホールの舞台を埋め尽くすような大人数演奏の楽曲ではなく、それどころか、トリオ、ソナタ、あるいはコンチェルトといった名前でも呼ばれました。

コンチェルトを含めこれらは数人で、つまり 1 パート一人の小規模なアンサンブルで演奏されるジャンルでした。やがてそれがアルプス以北のヨーロッパに広まり、シンフォニーなどとして、主調のことなる複数楽章で構成され、オーケストラ編成で、つまり弦楽器のパート譜を複数の人が担う音楽として発展します。ただしそれはあくまで、「今日で言う室内楽が、やや豪勢な演奏人数に強化されたもの」でした。室内楽との互換性のあったシンフォニーはしかし、19 世紀が進むにつれて、前者と明確に袂を分かち、大人数をむしろその存在理由とするジャンルに変貌します。

本邦の先人たちが法学や医学とともにヨーロッパの文化をとりいれる 19 世紀後半には、シンフォニーはそのようなものとしてすでに確立し、日本人にとってはそのような器楽、そもそも芸術音楽の頂点としてのシンフォニーが、目を見開いた先のヨーロッパの文化として輝いていたのであり、日本と同じ新興国ドイツで当時この種の音楽に接した森鷗外は、このジャンルの名前を交響曲と訳したのでした。今なおその意義を失わない名訳といえるでしょう。

こうして、おおむねハイドンのロンドン・シンフォニー・セットやモーツァルトの「３大」作品とともにベートーヴェンの９曲以降のシンフォニーが、威厳ある「クラシック音楽」を象徴する楽曲群として今日まで聞かれ続けています。けれどもハイドンやモーツァルトはもとより、「第九」を作曲したベートーヴェンにとってすら、オーケストラと室内楽の境界は今日よりはるかにあいまいで、両者ははるかに近い存在でした。ベートーヴェンの交響曲群はもちろんオーケストラ用の曲ではありますが、室内楽に近い空間・演奏団体で初演されたケースも確かめられます。ここであらためて思い起こすべきは、第一生命ホールが千代田区の現・DN タワー21 第一生命保険本館の場所にあった旧・第一生命館で、1952 年に室内楽ホールとしてその歴史をスタートしたことでしょう。もちろんそれは、オーケストラと室内楽が西洋でも分離したあとの時代の演奏会場ではありましたが、一方でオーケストラの公演も行われたものの、このホールは室内楽演奏の拠点としての地位を確立します。2001 年に晴海のトリトンスクエアに移ったあと現在までも、第一生命ホールは室内楽ホールとしての明確なプロフィール、拠点性と高い評価を維持しています。

先述のように日本では、ヨーロッパの音楽文化のある発展段階をいわば切り出して「クラシック音楽」そもそも「音楽」の受容が始まったために、それを形成する人々の活動の裾野を感じ取る機会は多くありません。シンフォニー／交響曲はまさに、数人の営みから始まったものですし、またそれが大規模芸術音楽の地位を確立する過程でも、ヨーロッパの私的空間ではさまざまな室内楽が営まれてきました。日常の営みの先にオーケストラがある、という歴史的蓄積を、本邦の音楽活動に求めるのは厳しすぎます。けれども「晴れオケ」とその成功は、少人数の音楽とオーケストラ音楽を繋ぐ役割がこのホールの大切なミッションであることを、あらためて示しているように思います。現実には、「晴れオケ」の公演は盛況になっても、たとえば弦楽四重奏の公演の客席は高齢男性の比率が圧倒的で、室内楽公演を多様な方々に届けることには困難が伴います。けれども第一生命ホールの歴史の蓄積と、トリトンアーツの体制、コロナ禍でのそのすぐれた対応力に鑑みたとき、ここでそのような多様性あふれる聴衆が開拓できなければ、少なくとも日本ではどこで、それが可能になるのでしょう。ハイドンやモーツァルト、そしてベートーヴェンが聞いていた、大編成と小編成がゆるやかな互換性でむすばれている音世界の魅力が、トリトンアーツの活動によって人々にさらに広まっていくことを心から期待します。

2023 年 5 月
トリトン・アーツ・ネットワーク　第 7 期評価委員長
小岩信治

第Ⅰ部 トリトンアーツ事業への評価について

2022年度はトリトンアーツ評価委員会の第7期最終年度にあたり、2023年3月から4月にかけて遠隔会議システムを使って実施した3回の評価委員会を中心にして、トリトンアーツの上記年度の活動を評価しました。

認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク第7期評価委員会

1. 委員会メンバー

委員長　小岩　信治（一橋大学大学院言語社会研究科　教授）
委　員　大塚　真実（三鷹市スポーツと文化財団芸術文化課　主任・音楽企画員）
委　員　佐藤華名子（企業メセナ協議会　プログラム・オフィサー）
委　員　佐藤　良子（静岡文化芸術大学文化政策学部　准教授）
オブザーバー　的場　康子（第一生命経済研究所）
オブザーバー　後藤　綾沙子（第一生命保険　コーポレートコミュニケーション部）
事務局　武田　有里（一橋大学大学院言語社会研究科　博士課程）

2. 2022年度評価委員会開催記録

第1回　2023年3月23日（木）　15:00～17:00
第2回　同年　4月 6 日（木）　15:00～17:00
第3回　同年　4月20日（木）　15:00～17:00
いずれも遠隔会議システムzoomを使って開催

3. 第7期評価活動（第3年次）概要

第3年次の評価は、トリトンアーツから提出された事業データ（主催・共催公演一覧、コミュニティ活動一覧、決算書）、そして当該年度に各委員が視察した公演・活動に対する所見にもとづき、上記3回の委員会、および必要に応じて行われた電子メールでの意見交換を経て、とりまとめました。

第1回委員会ではトリトンアーツからの当該年度の事業について報告を受けたのち、前年に策定した評価区分および評価項目について、年度ごとに評価委員会で課題を定めるとした（年度・個別）「目標項目」を含めたすべての評価区分・項目を、2020年度・2021年度と同様とすることを決定しました。

（年度・個別）「目標項目」のなかにコロナウイルス感染症への対応と関連するものがあり、それが求められている状況に変化がない、という事情を考慮した措置です。

第2回委員会では、委員が各評価項目に対する評価を持ち寄り、トリトンアーツに対して必要に応じて事実関係の確認を求め、第3回委員会を経て評価をとりまとめました。

以下に示す報告Ⅱの2の部分は、これらの委員会での検討結果をとりまとめ、後日に委員の確認を経て確定したものです。

第Ⅱ部　2022 年度活動評価

1.トリトンアーツによる評価

2020 年に始まったコロナ禍も 3 年目となった 2022 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響はありながらも、活動の回数やお客様の数はコロナ禍前並みに回復してきた。「クラシック音楽公演における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（クラシック音楽公演運営推進協議会）は、年度内に 3 回改定され段階的に規制が緩和された（2023 年 5 月 8 日に、新型コロナウイルス感染症が 5 類になったことを受けて撤廃）。

公演関係者のコロナ陽性で、中止した公演、代演メンバーで実施した公演があり、またコミュニティ事業でも、病院や介護施設などアウトリーチ実施がかなわなかったところもあったが、全体としてはコロナ禍前に近い活動ができるようになった実感がある。コロナ禍があったからこそ、あらためて大切であると気づかされたビジョン「音楽でつながり、音楽とともに生きる社会」を共有し、活動を続けることができたことは、ひとえに会員やサポーターとして支えて下さった皆さま、寄付をして下さった皆さまのおかげであり、心から感謝を申し上げたいと思う。

ホール公演事業

主催共催公演あわせて 27 公演予定のところ、25 公演実施（主催公演 1、共催公演 1 が中止）となった。新しいシリーズとして、コロナ禍で対象とする来場者が減った平日昼のシリーズと平日夜のシリーズを統合し、土日祝日を主な開催日とした「ごほうびクラシック」をスタートした。昼夜それぞれ約 1 時間で気軽に聴きやすいプログラムとし、開演前に客席でのストレッチコーナーを設けるとともに、晴海トリトンスクエア内飲食店で使用できるクーポン券を配布するなどの工夫をした。

第 2 回は昼に石田泰尚ヴァイオリン・リサイタル、夜に石田泰尚率いる YAMATO String Quartet を組み合わせ、弦楽四重奏という編成がほぼ満席となった。若手ピアニスト 4 人を集めた第 4 回も聴きごたえあり、リクエスト曲を募ったり、小学生対象のステージ体験をしたり、後日公演の様子を動画配信したりと新しい試みにも挑戦できた。

ホール周辺の湾岸地域で急増するファミリー層に向けた「子どもといっしょにクラシック」シリーズは引き続き好調で、初めて 1 日 3 回と回数を増やしたクリスマス・オーケストラ・コンサートを含めすべて完売となった。「ロビーでよちよちコンサート」は、コロナ禍で接触を避けるため 0-1 歳児と妊婦の方対象としていたが、実験的に 2-3 歳児対象の回も設け実施することができた。

「トリトン晴れた海のオーケストラ（晴れオケ）」は、2021 年 11 月のベートーヴェン「第九」公演とそのドキュメンタリーが 2022 年 5 月に NHK で放映された反響が大きく、小林愛実との初共演も話題となった 10 月の公演は、券売好調のため初めて同日夜に追加公演を開催し、昼夜とも完売。音楽雑誌「音楽の友」「サラサーテ」でカラーページに掲載されたり、お客さまから寄付の申し出をいただくなど、その演奏は高く評価され、知名度が上がっている。

創設以来の看板企画「SQW（クァルテット・ウィークエンド）」では育成にも力を入れた。ウェールズ弦楽四重奏団が若い弦楽器奏者のための「ウェールズ・アカデミー」を開始、弦楽四重奏 8 組、個人 18

名の応募があり、合格した弦楽四重奏2組、個人4名の計12名が数か月にわたるレッスンを受け、ウェールズ弦楽四重奏団と同じ舞台に立った。またクァルテット・エクセルシオが2018年度から続けている若手弦楽四重奏団との共演シリーズに2020年度に登場したクァルテット・インテグラは、2022年9月にARDミュンヘン国際音楽コンクールで第2位と聴衆賞を受賞、注目度が高く、3年シリーズの初回を盛況でスタートすることができた。「小山実稚恵の室内楽」は5年シリーズの最終回で、ヴィオラの川本嘉子とのデュオのために書かれた権代敦彦による新作も誕生した。本シリーズは、2023年から5年間の「新章」がスタートする。

チェロの宮田大は、自身の可能性を追求する「宮田大 Dai-versity」シリーズを開始。文楽の桐竹勘十郎、箏のLEOとの共演という初回は、中央区文化推進事業「文化創造・発信事業」の助成もいただき、日本の伝統文化との共演という新しい試みにチャレンジできた。

<u>コミュニティ事業</u>

2022年度は、病院、介護施設でのアウトリーチは見送らざるを得なかったものの41回実施（オープンハウスを入れて42回）。2020年度26回、2021年度34回と比べると、回数は2019年度41回（コロナにより4回中止）に近いところまで戻りつつある。新たに実施できたものとして、有明中学校での三味線体験とコンサート、三菱地所との協力企画で都内の特別支援学校の中学生・高校生を招待した「丸の内Shall Weコンサート」があった。引き続き、管楽器以外はマスクを着用して実施したが、コロナ禍前と同様、体育館でなく音楽室などでの実施が可能になった小学校もあり、また、先生方とご相談した上で、歌を歌ったり、楽器を触ったり、ピアノの下にもぐったりといった体験を実施することができた。

公演との関連講座としては、中央区民カレッジ（小山実稚恵の室内楽）ほか、岩田達宗によるオペラ講座（公演は中止）、徳丸吉彦によるBUNRAKU講座（宮田大 Dai-versity）を行い、お客さまに理解を深めて公演鑑賞をしていただけた。また第一生命や中央区社会福祉協議会からの依頼による式典でのコンサートでは、後述の「アウトリーチセミナー」の修了生たちが活躍した。

<u>人材育成事業</u>

若手演奏家がアウトリーチを実践しながら学ぶ「アウトリーチセミナー」は、例年どおりヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ1名ずつが参加、講師の松原勝也氏と弦楽四重奏を組んでオープンハウスに出演、また小学校2校で4、5年生対象にアウトリーチを行った。セミナーを修了した演奏家たちは、認定こども園や保育園でのアウトリーチの他、東京文化会館主催の都内文化施設4館連携による新進アーティスト支援事業「アフタヌーンコンサート」にも出演。オープンハウスでも、セミナー修了生や若手演奏家たちから応募のあった企画で公演を実施した。

サポーター（ボランティア）活動では、年度初めに集まっての登録会や交流会などはできなかったものの、ホールでの接遇研修会や、封入作業などの複数で集まる活動を復活させることができた。63名の登録者のうち、公演サポーターで延べ40名、コミュニティ活動で延べ38名の参加があり、多くのサポーターに支えていただいていることを実感した。

インターンとしては昭和音楽大学から1名、一橋大学大学院から1名、東京藝術大学から1名、計3名を受け入れ、それぞれ興味のある活動に参加し交流してもらうことができた。その他、外部では地域創造「ステージラボ川崎セッション」や、Kissポート財団職員対象の事業高度化研修、「すみだ川アートラウンド」ピア・レビューでプロデューサーやディレクターが講師を務めることで、トリトンアーツの活動を紹介するとともに、アートマネジメント人材育成に貢献した。

NPO 組織運営体制

2022 年 6 月の通常総会で 12 年ぶりに理事長が交替となったため、代表理事交替の諸手続きや組織運営に関する引継ぎなどを円滑に実施した。コロナ禍が続く中で、職員の在宅勤務・時差出勤等を計画的に実施するとともに、勤怠管理システム導入についての検討を行った。なお、監事による年 2 回の定例監査では、特段の指摘事項は無かった。

決算の状況

（1）活動計算書

経常収益　142,691 千円（2021 年度比 107.8%）

経常費用　138,135 千円（2021 年度比 111.9%）

当期正味財産増減額　4,556 千円（2021 年度比 50.9%）

前期繰越正味財産額　72,182 千円　　次期繰越正味財産額　76,738 千円

収益では、昨年度に続きコロナ禍の中での公演が続いたが、客数制限などが緩和されてきた影響もあり、公演数やお客様数などコロナ禍前の水準に回復してきた。そのため、チケットの売上高が進展するとともに、助成金や補助金等の獲得もほぼ予定通りできたため、収益全体で 2021 年度を上回る結果となった。費用では、公演制作費は、公演回数の増加等の要因を受けて、昨年度に比べ増加した。また、アウトリーチや、外部との協力企画も昨年度比で増加となった。そのため、費用全体でも 2021 年度を上回る結果となった。結果として、当初若干の赤字予想であったものを覆して、正味財産額を大きく増やすことができた。

（2）貸借対照表

資産　97,363 千円（2021 年度末比 107.6%）

負債　20,625 千円（2021 年度末比 112.8%）

正味財産合計　76,738 千円（2021 年度末比 106.3%）

2. 評価委員会による評価

2.1. 全体総括

コロナ禍３年目の事業は、この前例ない困難へのトリトンアーツの対応の記録と読み解くことができます。以下、今年度の評価において特徴的だった点をそれぞれの評価の柱ごとに抽出します。ホール公演事業においては、コロナ禍におけるラインナップの再編成が一定の効果を上げたこととともに、全体として前年よりも多くの聴衆を第一生命ホールに「呼び戻した」ことが特筆に値します。

コミュニティ事業については、依然として従来可能であったアウトリーチ活動をすべて再開することには困難があるものの、適切な感染症対策とともに着実な「復調」が確認されます。人材の育成という点でも、インターンシップの受け入れなどが再開・増加しており、こちらも慎重ながら、トリトンアーツの特色を生かす活動が確かめられます。NPO 組織としての運営も、2020 年度以来さまざまな試行錯誤が続いていますが、さらに安定した財務基盤を目指しつつ、またこの間に運用が定着した在宅勤務を職員の QOL 向上に活かしながら、全体として良好に行われています。

トリトンアーツの複合的な活動の連動は、インターネットなどを通じて工夫をこらして発信されており、日々の活動についての情報が公開されているほか、「晴れオケ」に対する地域を越えた評価の獲得などにもつながっています。委員からは個別には若干の問題点が指摘され、また改善への期待が表明されており、それについては以下、項目ごとの報告に記載していますが、それらは全体に対する高い評価に影響するものではありません。

2.2. 各論

以下、トリトンアーツの 4 つの事業、および事業間連携、計 5 つの評価区分に沿って、また 2020 年度第 2 回評価委員会でまとめられた評価項目に従って、評価を報告します。評価記号は第 6 期までのものを継承し、○：おおむね達成　△：一部未達成　×：未達成　？：判断保留の 4 種とします。

2.2.1. ホール公演事業

① 公演シリーズ・公演ごとのねらい、目的に沿った企画・制作の実施とフォロー　【○】

ホールの特性を活かしつつ、旬の演奏家を招き、クラシックのみならず（アウトリーチでも積極的に取り上げている）邦楽とのコラボレーション企画を実施するなど、多彩なラインナップを提供することで入場者数増を実現しています。コロナの影響が多少残るものの、実績と報告からは、企画から実施まで入念な検討のもとで各公演を実施してきたことがわかります。ただし、次項②にあるとおり、企画面、広報戦略面での改善が必要な公演も散見されます。

なお、ジャンル的にはもう少し思い切った冒険をしてみてもよいかもしれません。

② 公演演別集客目標・チケット売上目標達成　【○】

全体として、この厳しい状況下で前年よりもよい数字が残されており、全体の達成率は 100%を超えていますが、個別にはまだ改善できる公演も多少見られます。入場者数目標の達成率が低い公演については、良質の企画をそれゆえに切り捨てることがないよう、若い層に室内楽の魅力を伝えるというホールのミッションを大切にしつつ、必要に応じての今後の見直しが望まれます。ただし改善すべき点をすでに把握していることは評価できます。

③　ホール公演事業ラインナップ全体とビジョン、ミッションとの整合性　　【○】

特に新型コロナウイルス感染症拡大以来課題を抱えていた「昼の音楽さんぽ」と「645 コンサート」を統合して「ごほうびクラシック」へ移行するなど、これまでの実績を踏まえてラインナップが整理され、その組み替えは基本的に成功したと見られます。特に人気の「子どもといっしょにクラシック」は、小さなお子さんをお持ちのご家族の癒しの場となっているとともに、子どもたちへの情操教育の側面も見られ、こうした催しはスタッフの学びにもつながるでしょう（この企画は中央区での活動のみならず、トリトンアーツ制作の良質なファミリー向け公演として戸田市で再演されたほか、長崎県大村市へ企画コンテンツが提供されました）。

あらゆる世代が音楽に親しめる機会を提供するとともに、公演の実施に際して若手演奏家の育成に貢献しています。中央区に居住する方々、通勤通学する方々をメインターゲットとしながら、その対象は「晴れオケ」などの成功例が契機となり、少しずつ全国的に広がっているように思われます。

2.2.2. コミュニティ事業

①　アウトリーチのねらい、目的に沿った確実な実施とフォロー　　【○】

新型コロナウイルス感染症対策を細やかに行いつつ、小学校など各種の施設が安心してアウトリーチを受け入れられる環境を整えていること、また、制限がある中で子供たちが最大限音楽を楽しめる工夫を凝らしていたことが評価できます。法人の使命を果たすべく前年度よりも多くアウトリーチを実施し、丁寧な報告にも努めており、組織としてこれを重要な活動と位置付けていることがわかります。病院や福祉施設などでの活動は重要であり、そういった施設での受け入れが今後再増加するよう期待されます。

②　アウトリーチをはじめとするコミュニティ事業の実施場所・内容を含めた再検証　　【○】

中学校での開催が実現したことは、ノウハウなど経験値として獲得され、今後幅広く実施するきっかけになることが期待されます。またアンケート設問が見直され、さらなる改善が図られています。三菱地所との連携による協働メセナが継続していることは、メセナの意義が拡大している例と言え、高く評価できます。

③ コミュニティ事業への組織的なバックアップ体制　　【○】

基本的には複数名で分担して業務を実施していますが、学校側の都合と主催公演事業や出演者の稼働の多い月とのバランスを考慮しながらアウトリーチのスケジュールを組むのが大変な作業であることは想像され、スタッフの負担が毎年同様の時期に可能な限り集中しないように計画することが望まれます。またアウトリーチの実施後にはレポートを公開していますが、アウトリーチの「繁忙期」には速報性を重視することで負担が増大する可能性があるでしょう。多少のタイム・ラグが生まれることを是として、発信が分散されて更新がコンスタントに行われるほうが、サイト運営の観点からはよいかもしれません。

④ アウトリーチ活動の効果に関するフォローアップ　　【○】

アンケートの項目を、派遣側の視点だけではなく、受け入れる学校側の視点を取り入れて見直した点、それから楽器演奏体験とミニコンサートがセットになった邦楽器のアウトリーチにおいては、コンサートと楽器体験と別々にアンケートを実施するなどの工夫が見られ、高く評価できます。

なお今後、成果を数年分まとめて公表できるなら、同種の取り組みを行う団体にとって貴重な資料となるのではないかと考えられます。

2.2.3. 人材育成事業

① アウトリーチセミナーでの受講生公募、集中セミナーの実施　【○】

セミナーで学んだことをもとに実際にアウトリーチのプログラムを組み、現場に出向くほか、セミナー生がロビーコンサートや外部公演で演奏機会が得られるというすばらしい仕組み、試みが継続的に実施されています。トリトンアーツならではの企画と言えます。各年度の受講生のセミナー期間中のレポートや、修了後のその後の演奏活動の追跡などがなされていますので、今後例えば３年、５年、１０年といったスパンでのレポートがまとめられるよう期待されます。

② アートマネジメント専門人材の育成と、育成機関としての役割向上　【○】

大学院生、大学生のインターン生として３名を受け入れました。インターン生、サポーターは公演に関わるとともに、アウトリーチのレポートを執筆し、それらが継続的に公開されています。またインターンならではの視点からのアウトリーチセミナーのレポートも公開されました。こうして、将来音楽業界に就職を目指す若い人材の育成に努めています。インターン生の数が戻りつつあるようでよい兆しと言えます。

③ アウトリーチで活躍できる若手演奏家の中長期的な育成及び活動支援　【○】

アウトリーチやオープンハウス、「ロビーでよちよちコンサート」などに出演した若手演奏家への出演依頼を継続し、良い関係を保っています。アウトリーチ実践の場だけでなく、その周辺部分の経験値を獲得する機会を提供できています。

2.2.4. NPO 組織運営体制

① コンプライアンス、情報資産保護の徹底　【○】

問題なく適切に運営されています。

② 働き方改革、業務の見直しによる生産性向上　【△】

次年度より勤怠管理システム導入予定とのことですが、振替休日の取得については課題を残しています。また、総労働時間について個人差があるようです。有給休暇を全員が 5 日取得できたことは評価できますが、心身の休養を仕事のスケジュールと照らし合わせながら皆が上手に取得できるよう、また特定の人に業務が集中しないよう、工夫が望まれます。

③ 継続的な財政基盤の充実による単年度黒字達成　【○】

各公演における集客努力、新規会員の獲得の努力の結果が数字に表れています。助成金については減額になったものがあるとはいえ良好な集客実績報告ゆえであり、不採択がない点は高く評価できます。また理事長が専任となり、連動してファンドレイジングの強化を含めて健全な財政運営に寄与していることは、非営利団体として理想的です。今後その変化をぜひ会員増加につなげたいところです。総会表決権をもつ会員の会費によって収入の基盤を築くことには大きな意味があります。

④ 評価委員会との連携　【○】

適切に情報共有が行われています。(なお今年度は、今期評価委員会において３年度目にしてはじめて、委員が同一公演に参集する機会が実現しました。)

⑤　スタッフの人材育成　明確な具体的目標の設定　　【△】

「明確な具体的目標」という指標に鑑みれば評価が困難なところはありますが、外部団体での講師、地域創造「ステージラボ」のコーディネーターとしてスタッフを派遣する機会ができたことは、それが組織というより個人ベースの取り組みに発しているとはいえ、トリトンアーツの事業が全国的に注目されていることを示しています。そのような事業が実現するのは、トリトンアーツから学んで地域に還元したいと渇望する全国の文化施設の職員の存在があるからで、そこにはトリトンアーツの事業への信頼が見て取れます。こうした機会は他方で、トリトンアーツのスタッフにとって、自らが体験し血肉化したものを言語化し、他者に伝えることで自らにフィードバックする機会であり、自らを育てることにも繋がっているでしょう。

スタッフ向けの自己啓発補助金を支給しているほか、その活用のための面談等コミュニケーションが始まっていることも確かめられました。スタッフのステップアップのためのこうした自己研鑽の時間と機会の創出努力を、組織全体の底上げのためにも、継続してください。公立文化施設とは異なるNPO として、たとえば独自の啓発メソッドを確立できれば、広く業界への波及効果も期待できます。

⑥　事務局のリモートワーク実施状況及びその点での事業実施への影響回避　　【○】

リモートワークは一定程度定着し、在宅勤務は、家庭環境との折り合いや通勤時間短縮などの長所がスタッフにも感じられ、以前に比べれば全体として増加しています（３割出社）が、事業実施への影響はみられません。感染症対策が年々変化していますが、リモートワークが効率を高める部分については今後も活用してください。

2.2.5. 事業間の連携

①　アウトリーチセミナー若手演奏家支援充実による事業間連携の推進　　【○】

事業間連携による複数回の出演を通じて、優秀な若手演奏家たちが、演奏技術を向上させるだけでなく、様々な対象者に向けて多様なプレゼンテーションが求められることを実地に学べる仕組みが継続しています。トリトンアーツ出身アーティスト！と名乗る演奏家が今後つぎつぎと登場することが期待されます。

②　事業間連携としてのオープンハウスによる、ホール周辺在住、在勤者はじめ、だれもが気軽に音楽を楽しむ機会の提供　　【○】

コンテンツは非常に充実しており、気軽に訪れて良質な体験ができるイベントとなっています。誰でもウェルカムな雰囲気がホールの外（ホールの受付）から醸し出されています。オープンハウスで行ったアウトリーチ公開として、賛否が分かれつつも子どもたちの良い反応を引き出した公演のように、意欲的な企画も盛り込まれていることが読み取られました。

③　活動理解促進のためのホームページ、SNSの運用のチェック　　【○】

公演内容や各公演の中心的な聴衆となるジェネレーションの特徴にあわせてSNS の投稿を工夫し（「今日は何の日？」など）ホームページにおいてはアウトリーチのレポート、出演者のインタビューなどが読みやすくレイアウトされるなど、ウェブ上に情報が地道に蓄積されており、好感が持てます。

④　魅力的な活動の周知による支援者の拡充（寄付・会員数の向上）【△】

新型コロナウイルスの影響に加えて、ウクライナ危機や円安による物価高のもと、聴衆側はチケットを購入する公演をさらにシビアに選択するようになりました。

寄付者や会員を増やすことは容易ではありません。そのような状況において、SNS による不特定多数への発信を強化し、寄付管理サービス「コングラント」を活用して寄付が容易になるよう試みる一方、理事長が特定層（メセナ活動を行っている組織内部、この場合第一生命関係者）に向けてファンドレイジングのために自ら行動していることはたいへん重要です。

⑤　コロナ禍に鑑みた感染予防対策・活動の検証　　【○】

公演については出演者の罹患による影響が最大だったとみられますが、他方でオペラの公演についてなお最前列の販売ができませんでした。アウトリーチでは学校などで実施場所を体育館に変更するなどの対応を迫られています。しかしこうした不可避の状況において、新型コロナウイルス感染症のガイドラインが変更されるごとに、また事業ごとに対応を検討し、日常の事務所内のレイアウトを含めて感染予防を念頭においた対策が徹底されていました。

資料編

1. 第一生命グループとの関係およびトリトンアーツ組織図

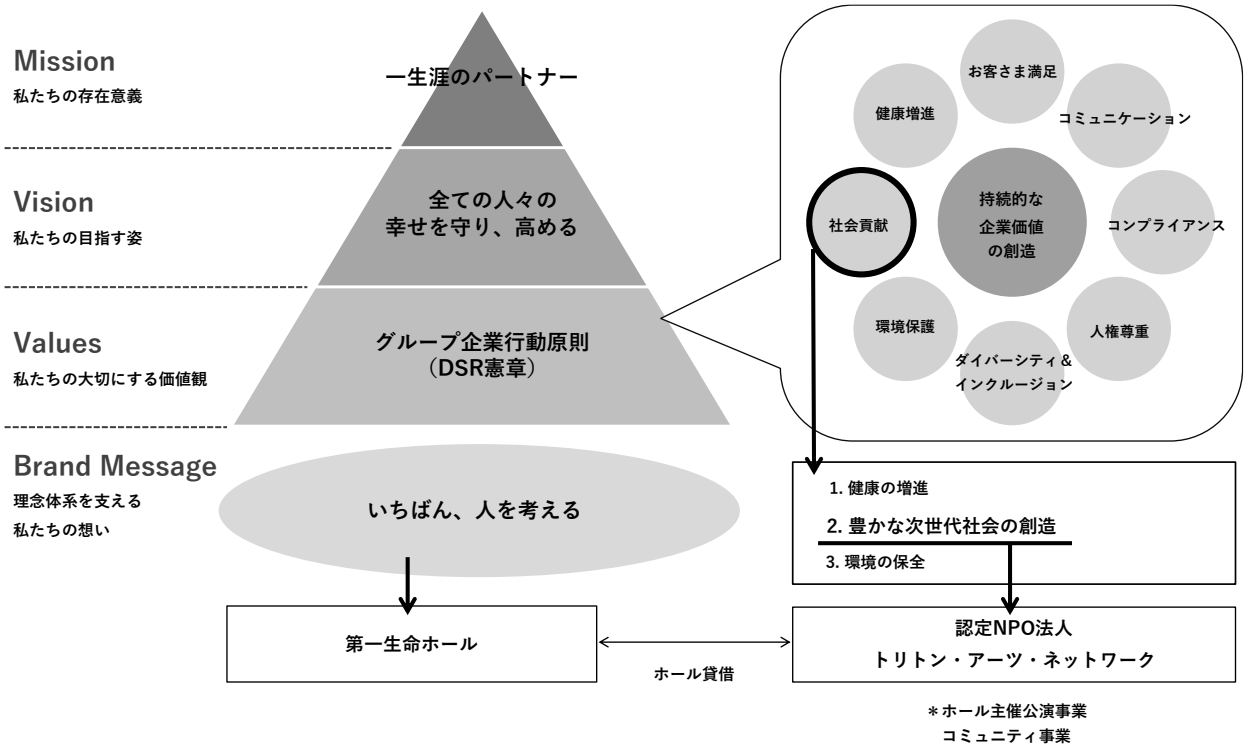


図 1-1. 第一生命グループとの関係

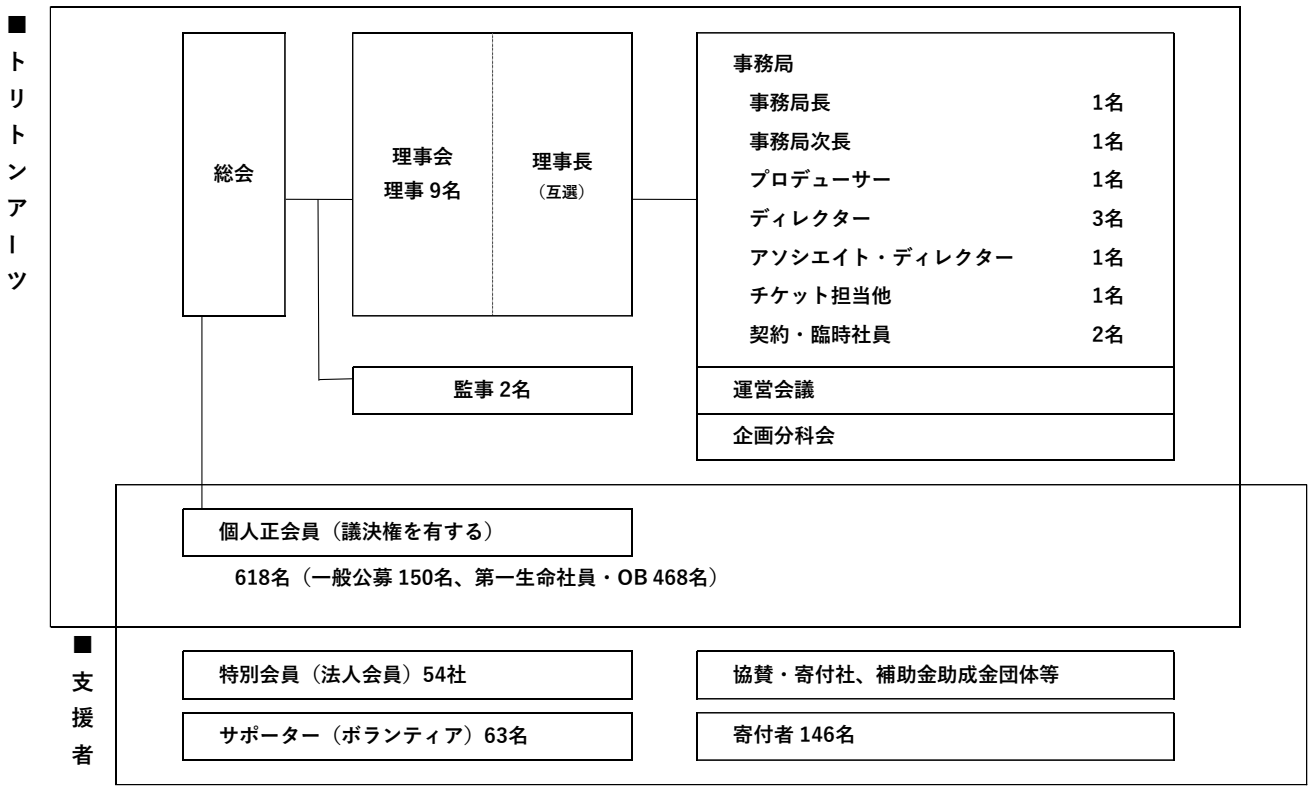


図 1-2. 組織図（数字は 2023 年 4 月現在）

2. ホール公演事業

公演入場料収入・入場者数

表 2-1. 公演入場料収入、主催・共催公演入場者数

公演入場料収入（単位：千円）	4,883	7,565	9,594	9,721	9,091	13,188	21,856	20,479	20,909	23,372
年度	**2003**	**2004**	**2005**	**2006**	**2007**	**2008**	**2009**	**2010**	**2011**	**2012**
主催・共催公演入場者数（招待含む）（単位：人）	11,201	9,125	10,035	12,074	9,592	9,837	14,501	11,501	12,513	11,403

公演入場料収入（単位：千円）	18,322	24,350	25,164	25,260	25,102	26,453	24,910	13,470	24,072	**38,451**
年度	**2013**	**2014**	**2015**	**2016**	**2017**	**2018**	**2019**	**2020**	**2021**	**2022**
主催・共催公演入場者数（招待含む）（単位：人）	10,094	13,174	14,721	13,083	14,727	14,818	13,217	5,477	8,355	**14,229**

図 2-1. 公演入場料収入推移

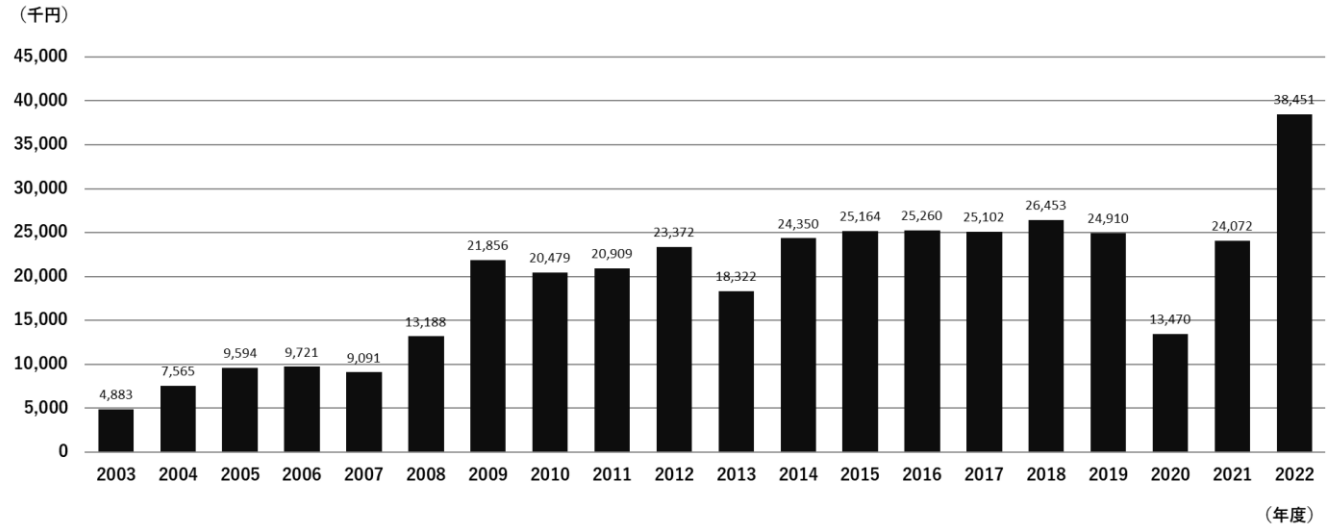
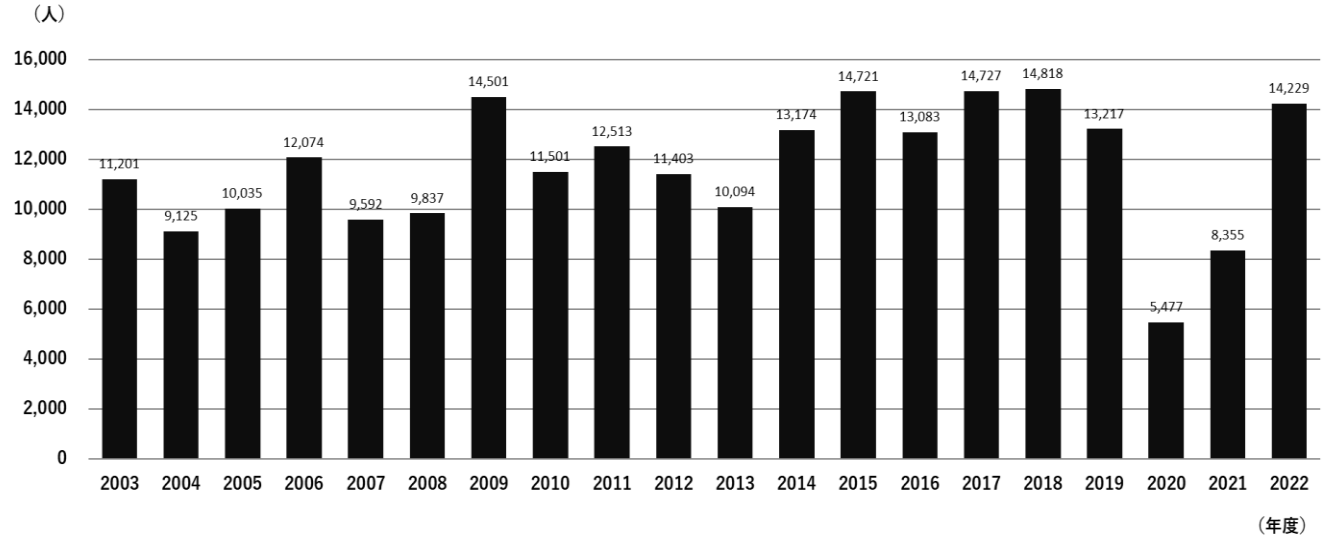


図 2-2. 主催・共催公演入場者数推移



3. コミュニティ事業

事業実施状況

表 3-1. アウトリーチ実施場所・実施回数

年度 / 場所・回数	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
小学校	12	16	15	12	13	12	13	12	16	16	19	18	17	19	20	14	17	20
回数	13	18	15	12	20	21	24	18	20	19	19	18	18	20	20	14	17	23
幼稚園等	7	4	3	5	2	3	4	4	5	4	6	6	6	6	6	6	6	6
回数	7	4	3	5	2	3	4	4	5	4	6	6	6	6	6	6	6	6
病院・介護施設	8	5	4	7	4	3	1	2	2	2	4	5	5	5	5	2	2	3
回数	8	8	4	7	4	3	1	2	2	2	4	5	5	5	6	2	2	3
その他	5	6	5	4	4	3	2	3	4	3	2	2	8	14	9	4	8	12
回数	5	6	5	4	4	3	2	3	4	3	2	2	8	14	9	4	10	14
実施場所数計	32	31	27	28	23	21	20	21	27	25	31	31	36	44	40	26	33	41
実施回数計	33	36	27	28	30	30	31	27	31	28	31	31	37	45	41	26	35	46
協力企画	6	2	2	2	2	4	7	4	3	3	2	2	6	5	2	0	4	6

図 3-1. アウトリーチ実施場所推移

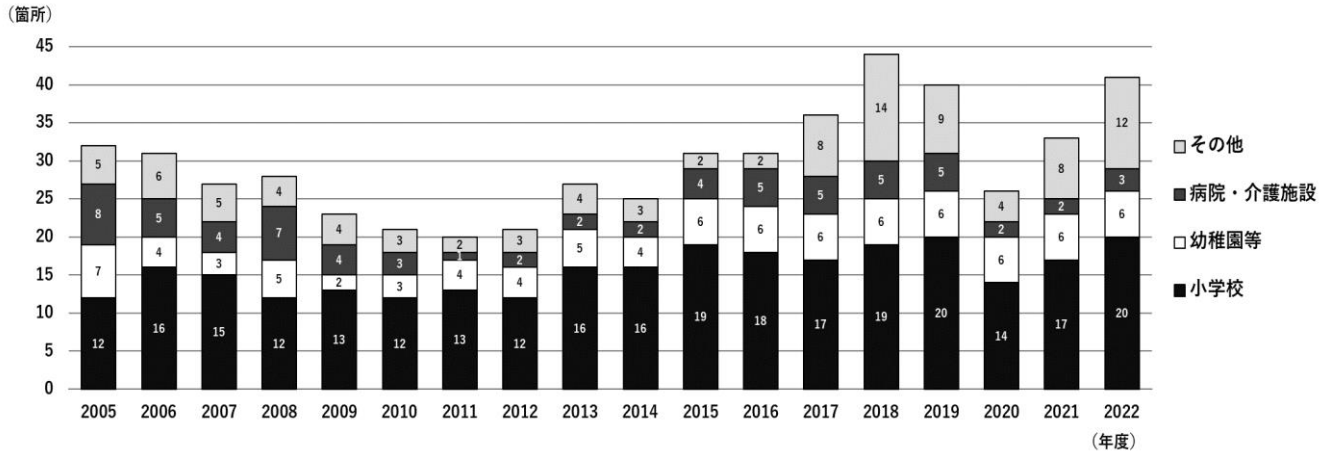
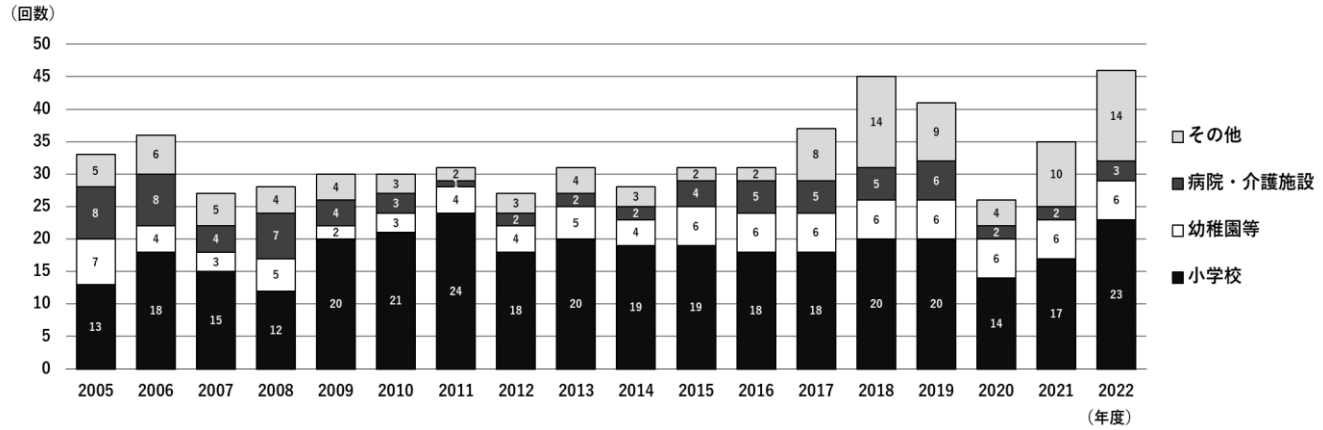


図 3-2. アウトリーチ実施回数推移



4. 人材育成事業

サポーター状況（2023 年 3 月 31 日時点）

表・図 4-1. サポーター数概要

（単位：人）

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
サポーター数	128	87	84	77	68	69	58	61	73	63	73	64	72	72	77	75	76	69	63
うち中央区民	27	18	19	20	17	23	20	20	24	21	24	22	17	21	20	16	19	20	16
実働数				35	60	62	58	61	73	63	61	52	58	70	63	60	4	31	40

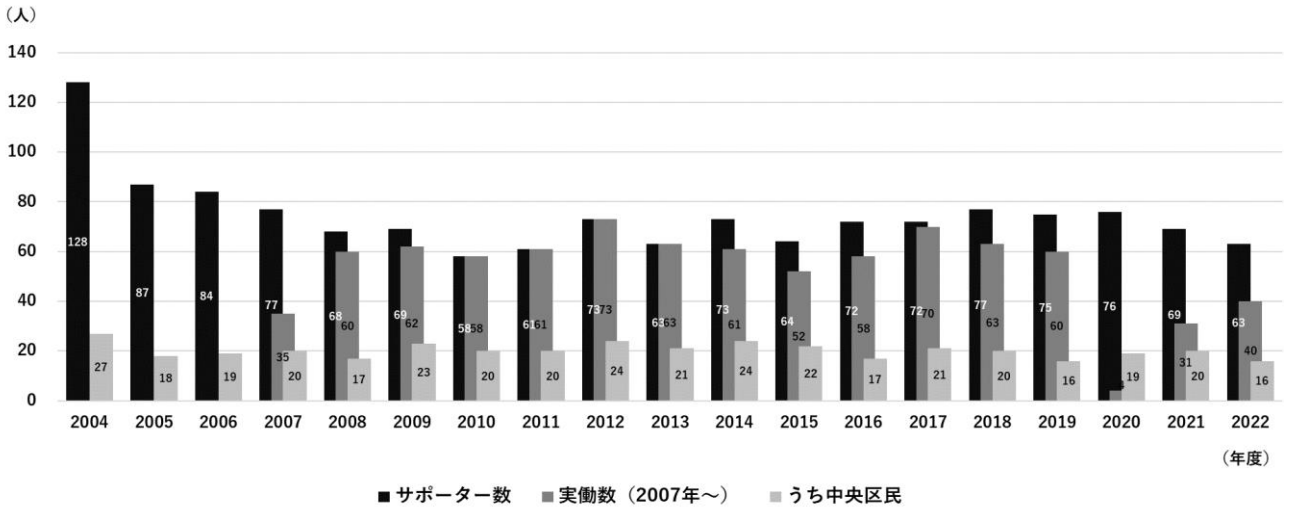
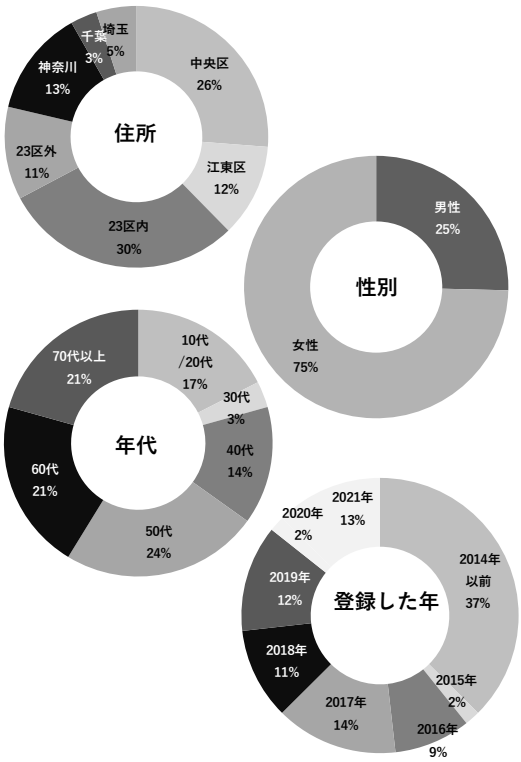


表 4-2. サポーター数推移・属性

	年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
（単位：人）	サポーター数	73	63	73	64	72	72	77	75	76	69	63
住所	中央区	20	24	21	24	22	17	21	20	16	20	16
	中央区外	41	49	42	49							
	江東区						8	11	11	12	9	7
	23区内						21	20	26	23	22	18
	23区外						6	2	1	4	4	7
	神奈川						10	8	11	11	9	8
	千葉						7	5	4	4	2	2
	埼玉						1	3	3	4	2	3
	茨城						2	2	1	0	1	1
	静岡									1	0	0
性別	男性	15	20	19	19	13	18	15	15	17	16	16
	女性	46	53	44	54	51	54	57	62	58	53	47
年代	10代/20代						16	13	19	10	7	11
	30代						5	3	4	8	5	2
	40代						15	17	15	9	12	9
	50代						10	11	12	20	19	15
	60代						16	15	15	14	11	13
	70代以上						10	13	12	14	15	13
	不明											
登録した年	2014年以前						28	23	20	20	21	21
	2015年						11	8	7	5	3	1
	2016年						8	8	5	4	5	5
	2017年							17	12	7	10	8
	2018年								15	10	7	6
	2019年									11	10	7
	2020年										5	1
	2021年											7
	2022年											7
新規登録	新規登録	25	9	20	13	25	16	18	18	5	8	7
退会状況	退会	13	19	10	22	17	16	13	20	4	15	13

図 4-2. 2022 年度サポーター属性



5. NPO ガバナンス

個人会員・特別会員（法人会員）・寄付等状況

表 5-1. 会員別年会費区分

個人正会員		1口 1万円
特別会員（法人会員）	エステルハージ・サークル会員	1口 10万円（5口以上）
	ラズモフスキー・サークル会員	1口 10万円（2口以上～4口以下）

表 5-2. 会員状況・助成先・協賛先推移

分類＼年度		2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
個人会員（単位：口）		836	827	790	747	710	765	723	683	650	657	671	745	736	733	716	682	645	618
個人会費額（単位：千円）		8,525	8,000	7,990	7,560	7,310	7,730	7,460	7,410	6,510	6,650	6,840	7,550	7,530	7,420	7,360	7,050	6,720	6,430
個人会員内訳（単位：口）	第一生命	513	505	486	458	447	516	502	481	455	463	484	567	563	566	554	524	499	468
	その他	323	322	304	289	263	249	221	202	195	194	187	178	173	167	162	158	146	150

分類＼年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
法人会員（単位：口）	32	33	31	30	41	45	44	44	43	44	44	45	46	52	53	55	54	54
法人会費額（単位：千円）	11,100	11,100	10,800	9,900	16,800	19,900	20,800	20,900	21,400	21,900	22,200	22,200	20,100	24,600	23,800	23,400	22,800	19,700
助成件数（単位：件）	6	10	8	4	7	6	9	4	3	2	2	3	3	5	3	4	4	4
助成金額（単位：千円）	6,100	12,200	11,018	6,034	10,795	6,649	14,262	10,048	9,148	9,103	7,515	5,670	8,560	10,560	9,879	11,655	12,012	11,191
協賛・寄付社件数（単位：件）	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
協賛・寄付金額（単位：千円）	61,650	61,198	61,170	65,730	69,801	55,500	50,600	48,500	48,600	48,800	50,000	53,750	50,450	49,304	51,604	50,979	54,230	54,104
個人寄付者 ※内諾者含む申込ベース（単位：名）								153	207	200	201	198	186	180	175	291	170	183
個人寄付金額（単位：千円）								28	1,329	1,337	1,440	2,334	2,646	1,869	2,429	3,847	2,565	4,634

図 5-1. 個人会員数推移・内訳

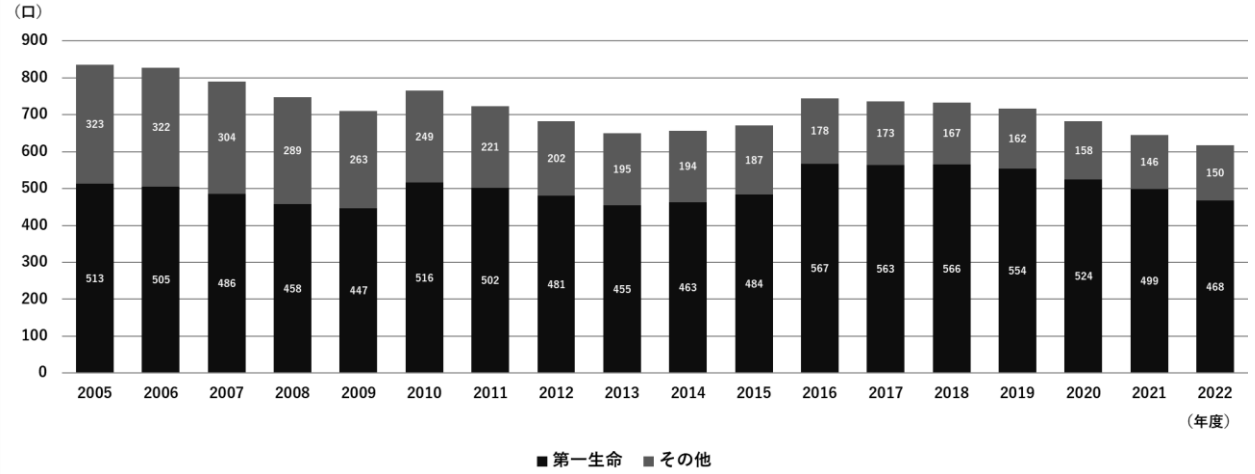


図 5-2. 法人会員数推移

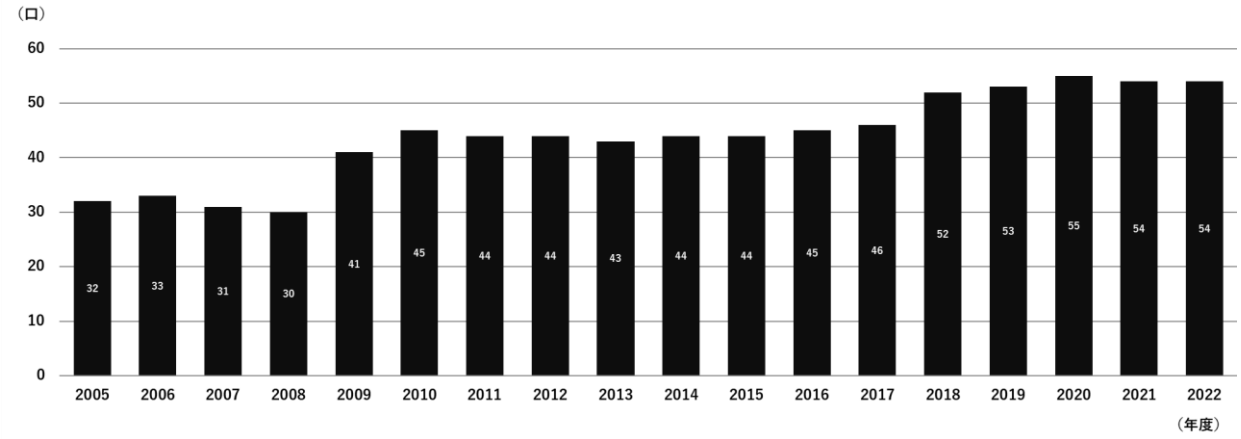
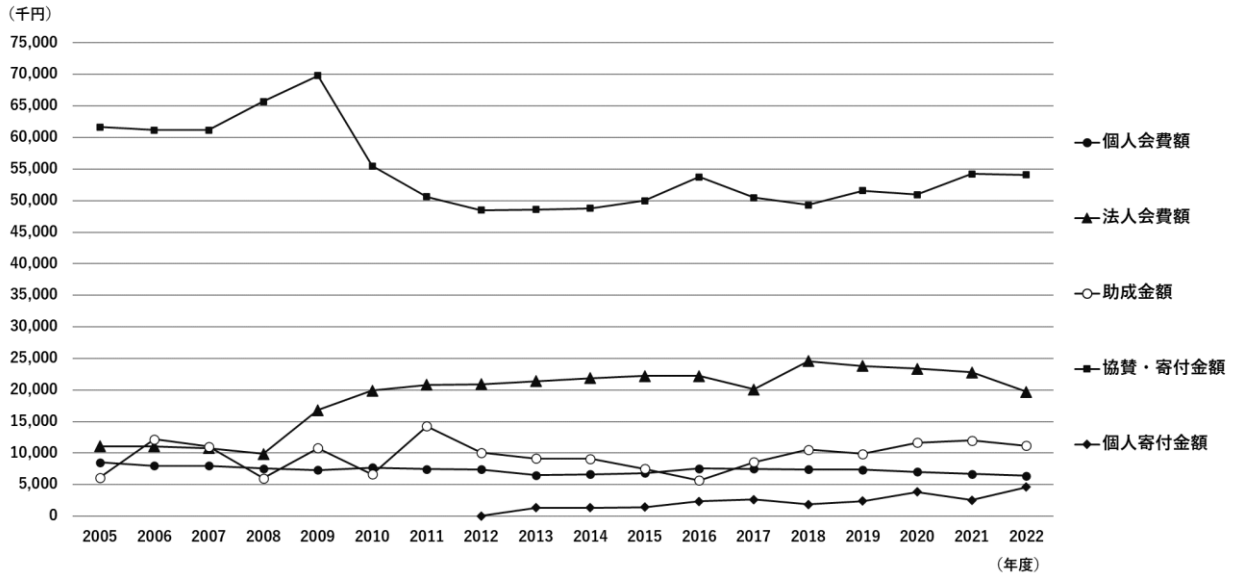


図 5-3. 会費・助成金・寄付金額推移



6. 2022 年度トリトンアーツ主催公演における顧客分析抜粋

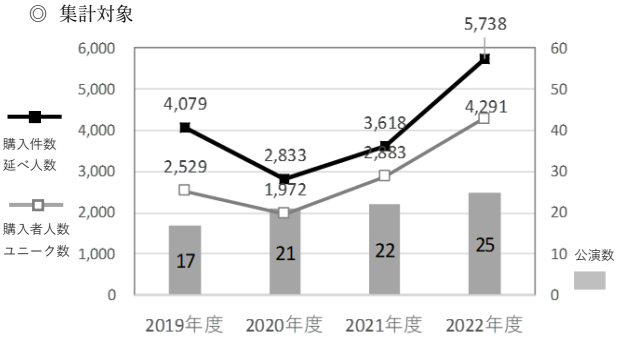
◎ 本データは、主にトリトンアーツ主催公演のトリトンアーツ・チケットデスクでのチケット購入者を対象に集計を実施。各プレイガイドでの購入者は集計対象には含まれていない。
2022年度対象公演のシリーズ別一覧は右図のとおり。

◎ 集計方法
［購入公演数］ ⇒ 購入者人数（ユニーク数）で集計
その他 ⇒ 購入件数（延べ人数）で集計

◎ 「購入履歴無」の購入者＝初購入者
「購入履歴有」の購入者（2回目以降）＝リピーター と定義

◎ 顧客の性別・年齢はオンライン会員登録をしている顧客のみ集計
（電話・来社予約等では性別・年齢情報は未確認。）

◎ 集計対象

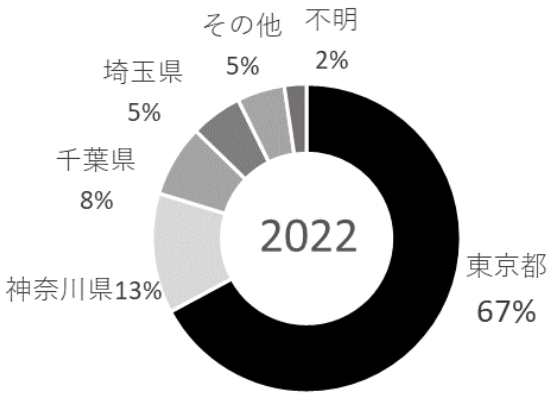


◎2022年度顧客分析対象公演

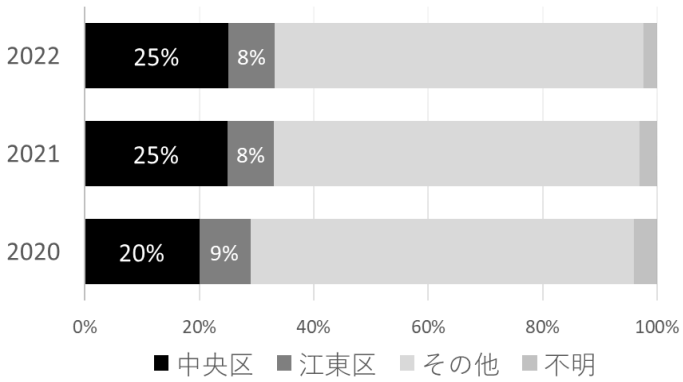
SQW（クァルテット・ウイークエンド・シリーズ）		4公演
1	5/8（日）	ウェールズ弦楽四重奏団～ベートーヴェン・チクルスVI（全6回）
2	11/19（土）	ウェールズ弦楽四重奏団～アカデミー生とともに
3	2023/1/28（土）	クァルテット・インテグラ
4	2023/3/18（土）	クァルテット・エクセルシオ×チェルカトーレ弦楽四重奏団
ウィークエンドコンサート		6公演
1	8/6（土）	三浦一馬 東京グランド・ソロイスツ（TGS）第6回演奏会
2	10/1（土）	トリトン晴れた海のオーケストラ第11回演奏会 昼公演
3	10/1（土）	トリトン晴れた海のオーケストラ第11回演奏会 追加公演
4	12/3（土）	小山実稚恵＆川本嘉子～ヴィオラ＆ピアノ・デュオIII
5	2023/1/21（土）	トリトン晴れた海のオーケストラ第12回演奏会
6	2023/2/26（日）	宮田 大 Dai-versity 第1回 文楽
ごほうびクラシック		6公演
1	5/4（水祝）	第1回 村治佳織ギター・リサイタル 昼の部
2	5/4（水祝）	村治佳織ギター・リサイタル 夜の部
3	9/19（月祝）	第2回 石田泰尚ヴァイオリン・リサイタル 昼の部
4	9/19（月祝）	Yamato String Quartet 夜の部
5	11/26（土）	第3回 こばんだウインズ
6	12/16（金）	第4回 ピアノ・オールスターズ
子どもといっしょにクラシック		6公演
1	5/7（土）	音楽と絵本コンサート『もりのピアノ』
2	9/23（金祝）	和楽器で音楽と絵本コンサート～楽器×歌×感動の物語♪
3	12/11（日）	クリスマス・オーケストラ・コンサート(1回目)
4	12/11（日）	クリスマス・オーケストラ・コンサート(2回目)
5	12/11（日）	クリスマス・オーケストラ・コンサート(3回目)
6	2023/2/18（土）	音楽と絵本コンサート『こんとあき』
ロビーでよちよちコンサート		3公演（計18回公演）
1	6/20（月）21（火）	第36回 0～1歳児と妊婦さんのためのコンサート(6回公演)
2	10/28（金）31（月）	第37回 0～3歳児と妊婦さんのためのコンサート(6回公演)
3	2023/3/2（木）3（金）	第38回 0～3歳児と妊婦さんのためのコンサート(6回公演)

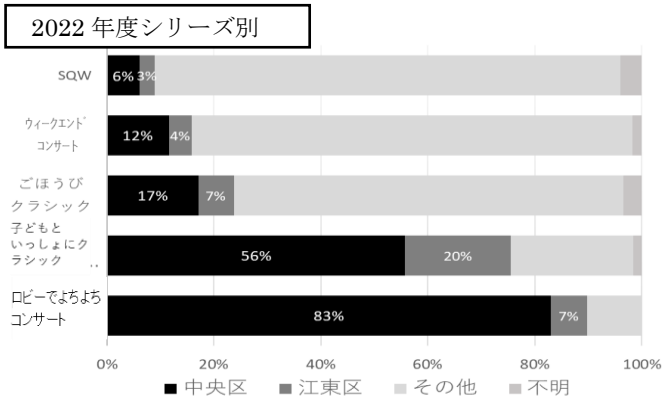
※1 ロビーでよちよちコンサートは各6回公演、クリスマス・オーケストラ・コンサートは3回公演
10月のトリトン晴れた海のオーケストラ第11回演奏会は2回公演として集計
※2 共催公演(5月・10月ヤングシンフォニー、11月柴田花音チェロ・リサイタル)は集計対象外

チケット購入者の居住地（オンライン予約&Tel・来社他）

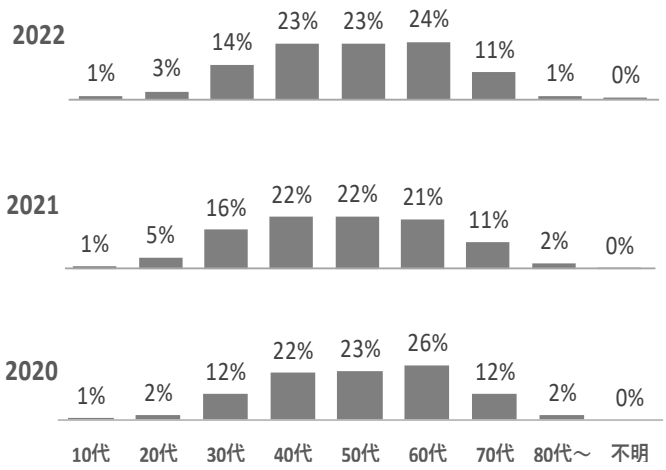


チケット購入者の居住地（中央区・江東区が占める割合）（オンライン予約&Tel・来社他）

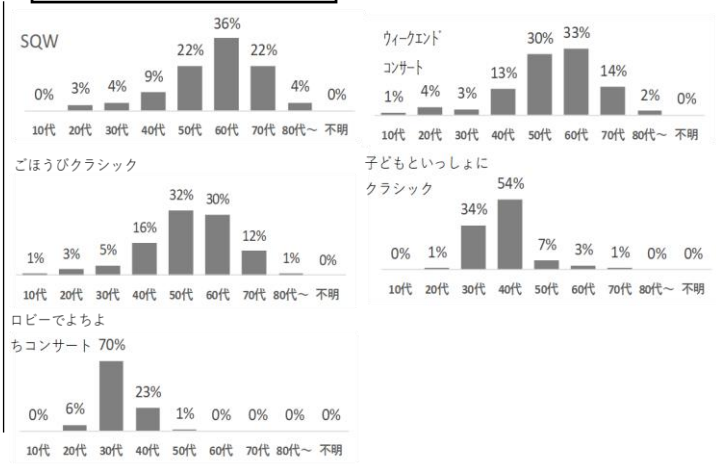




チケット購入者の年代（オンライン予約）

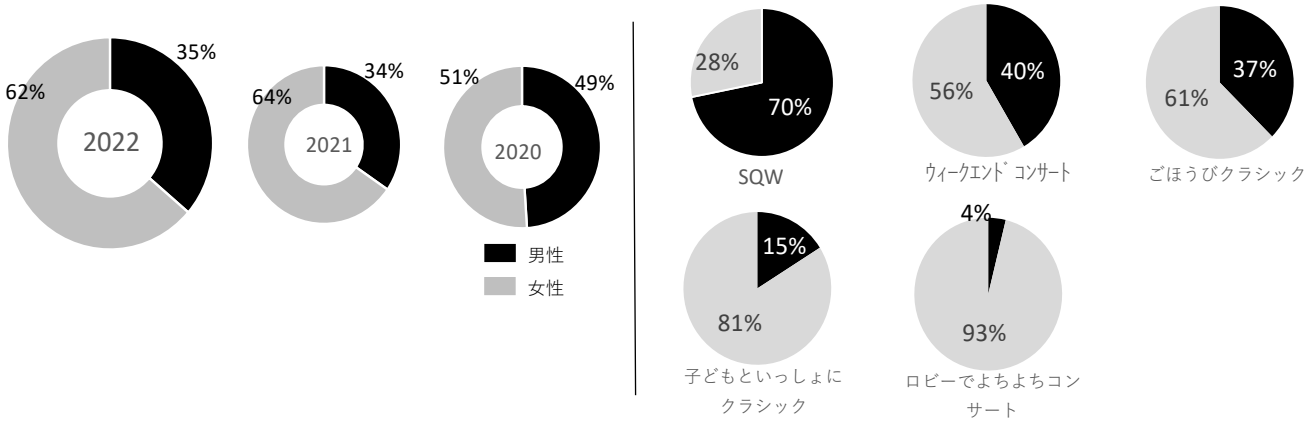


2022 年度シリーズ別



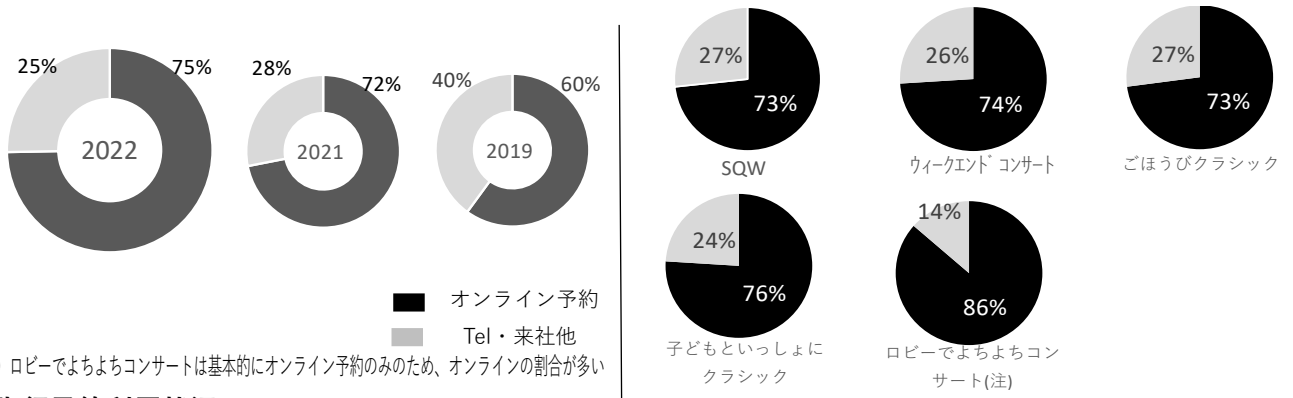
チケット購入者の男女比（オンライン予約）

※不明があるため、合計 100％とならない場合もある



チケット購入方法（オンライン予約＆Tel・来社他）

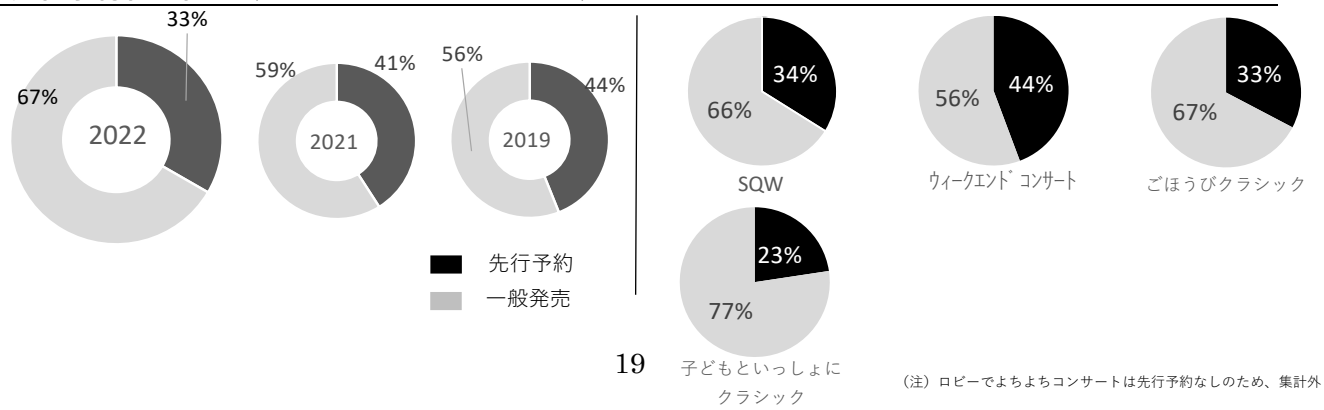
※2020 年度は再配席処理の関係上データ取得不能



(注) ロビーでよちよちコンサートは基本的にオンライン予約のみのため、オンラインの割合が多い

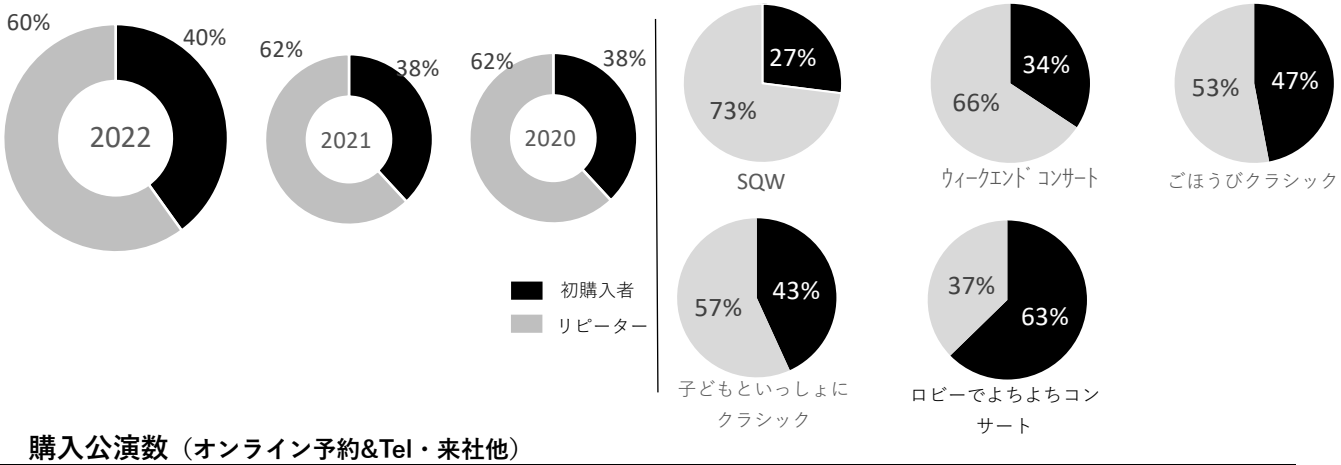
先行予約利用状況（オンライン予約＆Tel・来社他）

※2020 年度は再配席処理の関係上データ取得不能

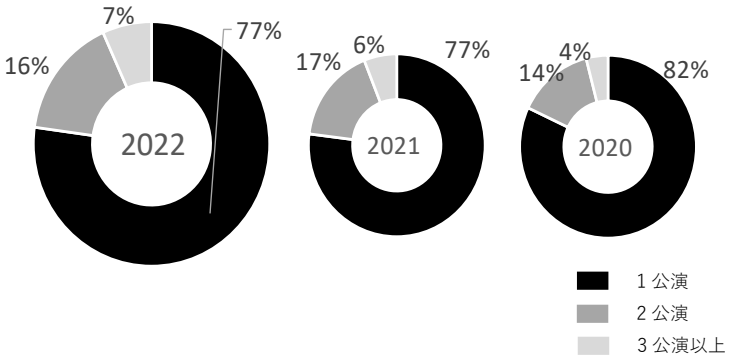


（注）ロビーでよちよちコンサートは先行予約なしのため、集計外

初購入者・リピーターの割合（オンライン予約&Tel・来社他）



購入公演数（オンライン予約&Tel・来社他）



（出典：トリトンアーツ事務局作成資料）

認定特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク 2022 年度評価事業報告書
認定特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク評価委員会編

発行　2023 年 6 月
認定特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク
〒104-6005　東京都中央区晴海 1-8-10
晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワーX棟 5 階
TEL：03-3532-5701　FAX：03-3532-5703
URL：https://www.triton-arts.net/